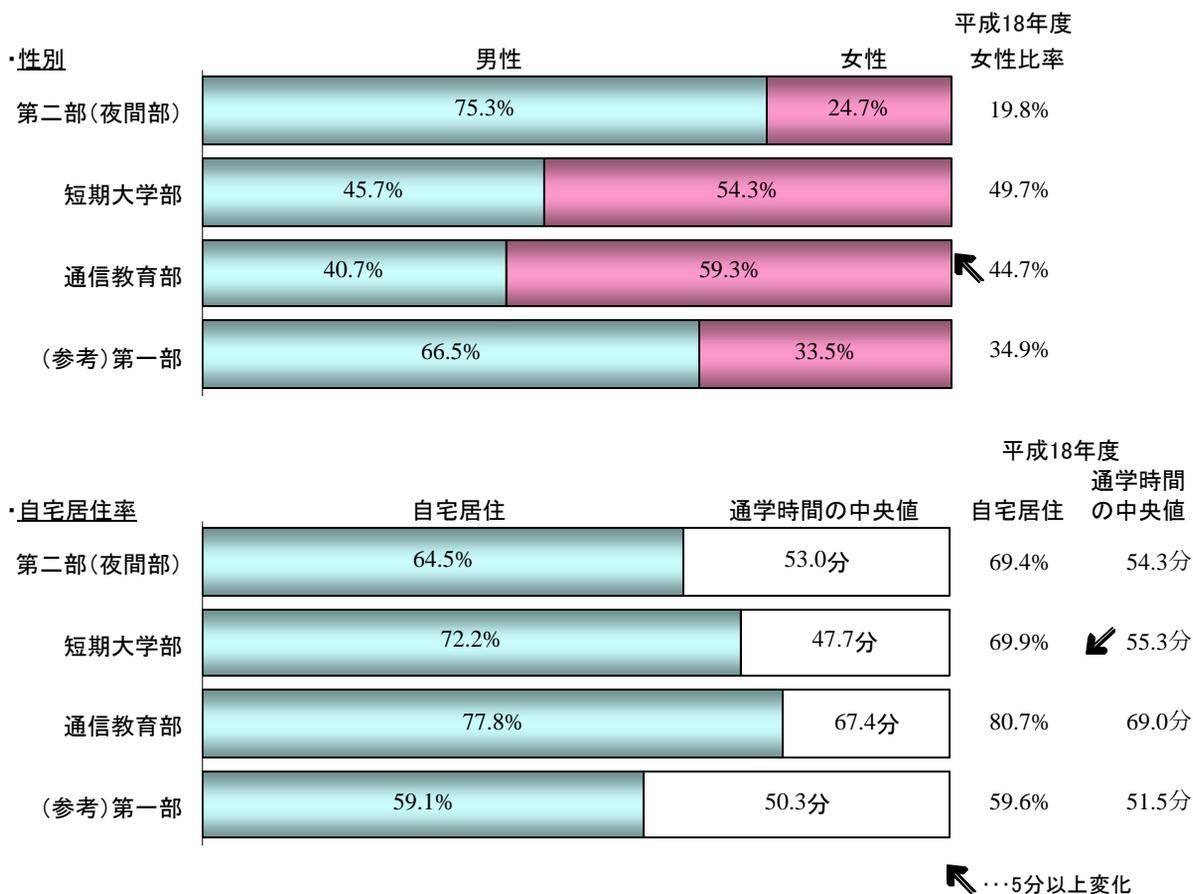


1. 学生の特性

第二部(夜間部)は男性が75.3%, 短期大学部と通信教育部は女性が過半数。
 第一部の学生より自宅居住者の比率が高い。通学時間は短期大学部で短縮傾向。

学生の男性比率を見ると, 平成19年度から経済学科の募集停止となり法律学科主体となった第二部(夜間部)は75.3%, 商経学科・建設学科・農学科など(三島・船橋・湘南キャンパス)から成る短期大学部は45.7%, 通信教育部(うち昼間スクーリングの学生)は40.7%となっています。第一部(昼間)と比較すると, 経済学科が第二部(夜間)は男性比率が高く, 短期大学と通信教育部は女性比率が高くなっています。3年前(平成18年度)と比較すると女性の割合が増える傾向がみられます。

自宅居住者は, 千代田区三崎町キャンパスの第二部(夜間部)は64.5%, 三島・船橋・湘南にキャンパスが分かれる短期大学部は72.2%, 通信教育部(うち昼間スクーリング受講生)は77.8%となっており, 第一部の学生より自宅居住者の比率が高くなっています。通学時間の中央値をみると, 第二部(夜間)で53.0分と第一部の学生より若干長めとなっています。通信教育部の昼間スクーリング受講生は, 遠方からの通学者が多いようであり, 通学時間の中央値は67.1分となっています。平成18年度と比較すると, 通学時間は短期大学部では短くなる傾向にあるようです。



2. 勉学態度

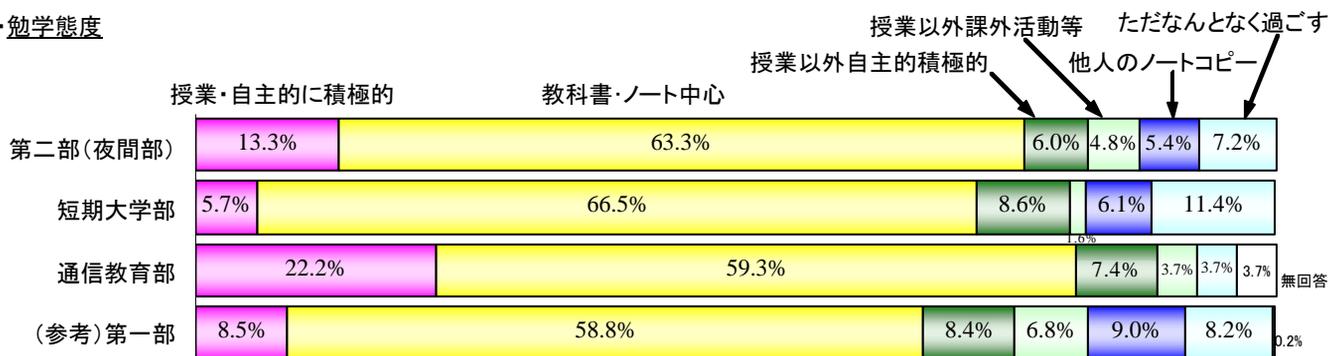
「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」が過半数。
第一部より比較的主観的な勉学態度の学生の比率が高い。第二部（夜間部）で年々増加。

勉学態度を見ると、「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」するように勉学している学生が第二部（夜間部）で63.3%、短期大学部で66.5%、通信教育部で59.3%と、それぞれ過半数を占めています。

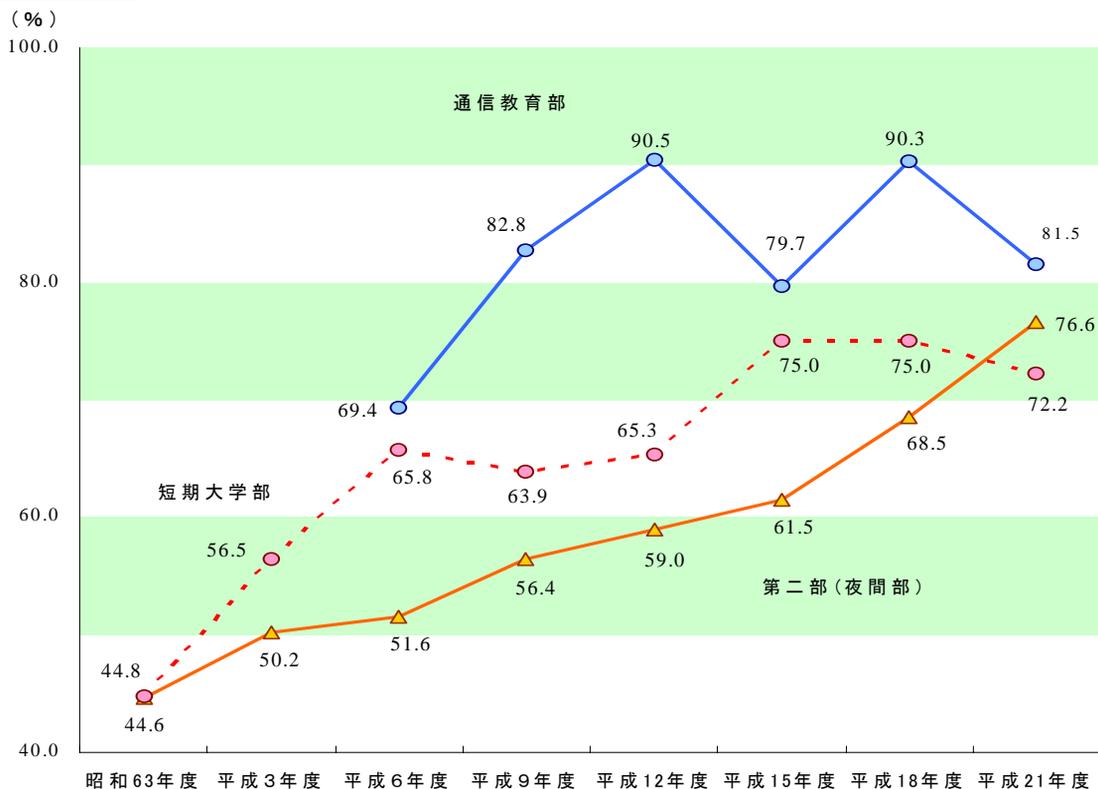
「授業や自主的で積極的な勉学態度」と「教科書・ノート中心」を合計した比較的主観的な学生の比率は、第二部（夜間部）で76.6%、短期大学部で72.2%、通信教育部で81.5%となっており、第一部の学生（67.3%）と比較して高くなっています。

経年変化を見ると、比較的主観的な学生の比率は、第二部（夜間部）では昭和63年度から年々増加し続けており、21年間で32.0ポイント増加しています。短期大学部では平成15年度の75.0%をピークに2.8ポイント減少、通信教育部は平成18年度の90.3%より8.8ポイント減少しています。

・勉学態度



・勉学態度の経年変化



(注) 「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を取得」の%の合計

3.授業態度(熱心さ)

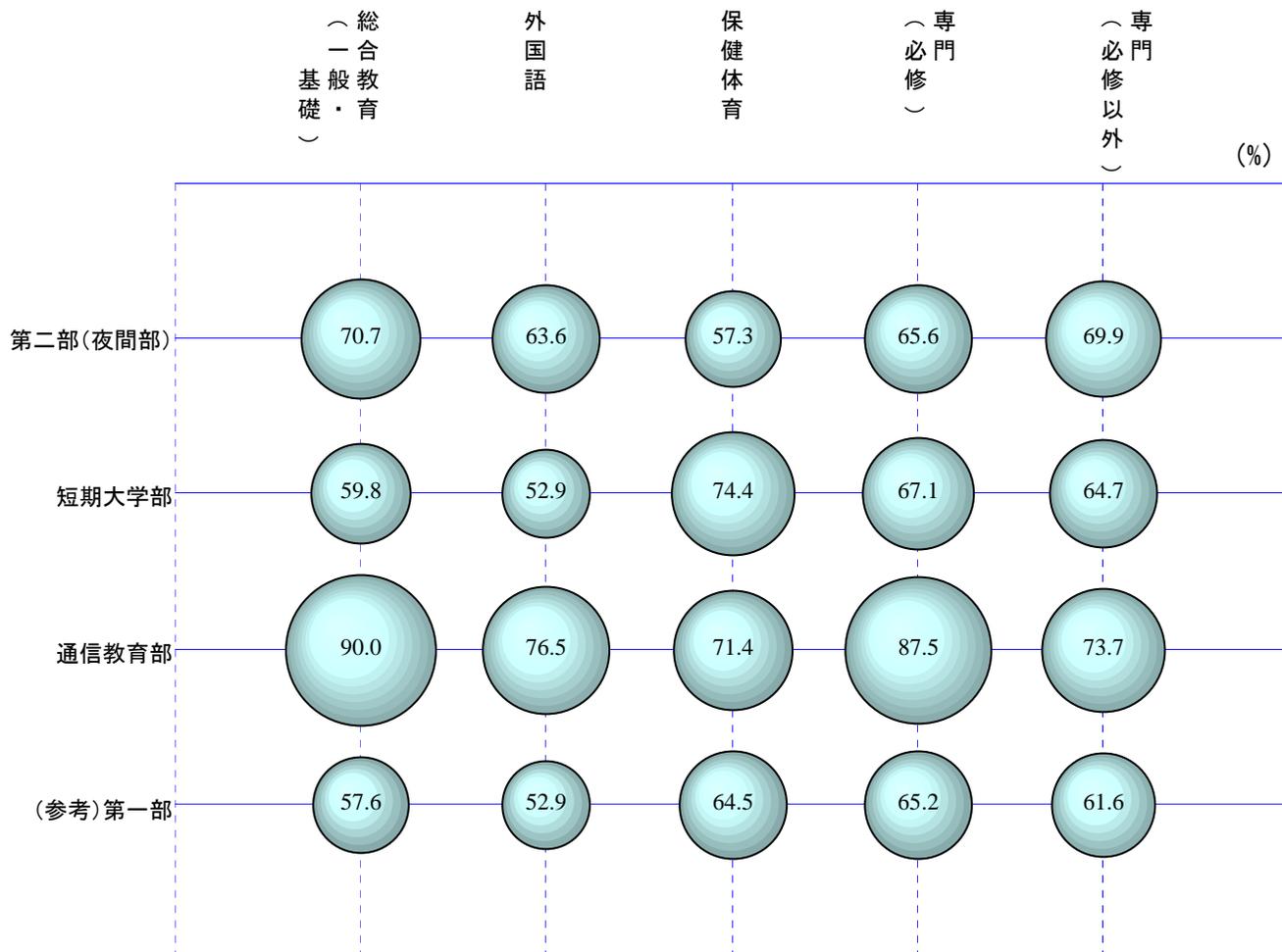
第二部(夜間部)と通信教育部では総合教育，短期大学部では保健体育に熱心な学生の比率が最も高い。第一部学生と比較するとその傾向が顕著。

授業態度について「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を学部別に見ると，第二部(夜間部)では，総合教育が70.7%で最も高く，専門(必修以外)が69.9%で続いています。

短期大学部では，保健体育(74.4%)，専門(必修) (67.1%) の順で高く，外国語が52.9%で相対的に低くなっています。

通信教育部では，総合教育(90.0%)，専門(必修) (87.5%) の順に高く，他の分野でも70%を超え，全般的に熱心な授業態度が見られます。

第一部の学生と比較すると，第二部(夜間部)と通信教育部は総合教育，短期大学部では保健体育が熱心な学生の比率が高い点が目立っています。



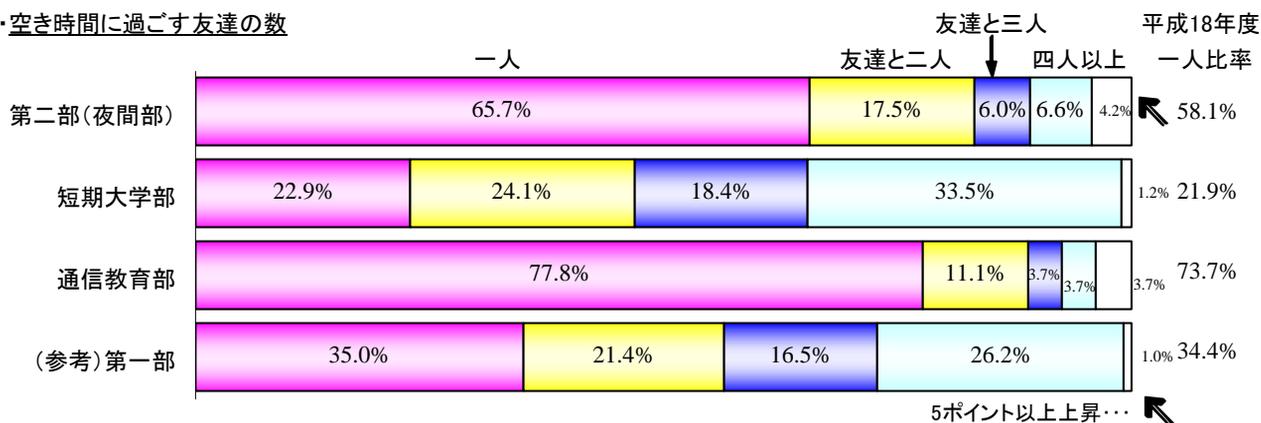
4.空き時間の過ごし方

第二部(夜間部)と通信教育部は空き時間に「一人」で過ごす学生が多く、増加傾向。
短期大学部では大勢の友達と過ごす学生が多く、過ごす場所は分散傾向。

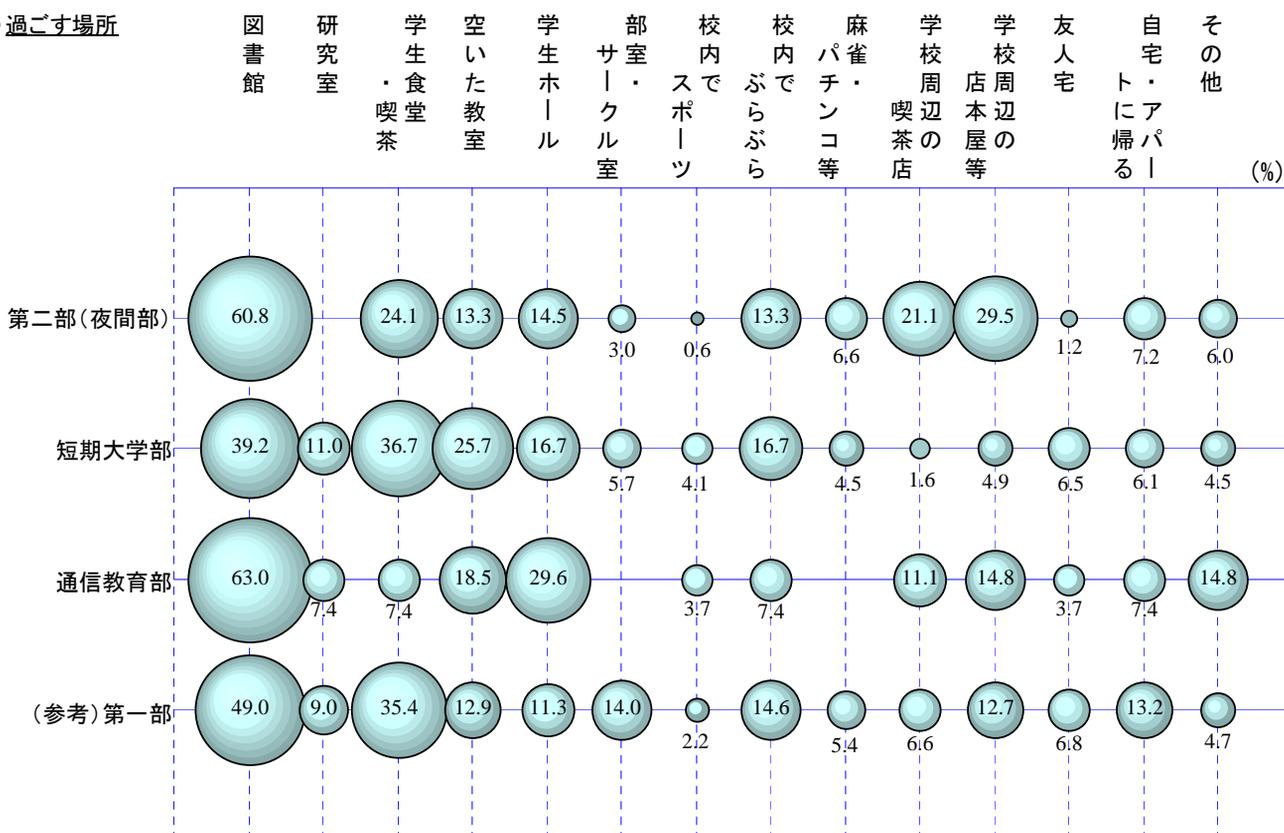
学内で空き時間ができた時に一人で過ごす学生の比率は、第二部(夜間部)で65.7%、通信教育部で77.8%、と高い点が目立ちます(3年前より前者で7.6ポイント増、後者で4.1ポイント増)。短期大学部では、一人は22.9%にとどまっており、友達と「二人」が24.1%、「三人」が18.4%、「四人以上」が33.5%と、第一部と比べても、比較的大勢の友達と過ごす学生の比率が高い傾向にあります。

空き時間に過ごす場所を見ると、第二部(夜間部)と通信教育部共に「図書館」が断トツとなっています。短期大学部は「図書館」(39.2%)、「学生食堂・喫茶」(36.7%)、「空いた教室」(25.7%)など分散傾向が見られます。

・空き時間に過ごす友達の数



・過ごす場所

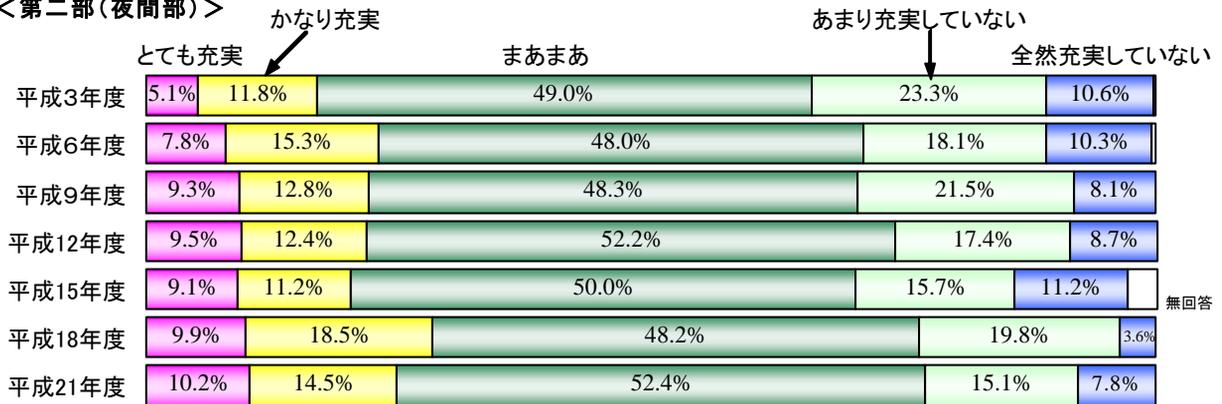


5. 学生生活充実感の経年変化

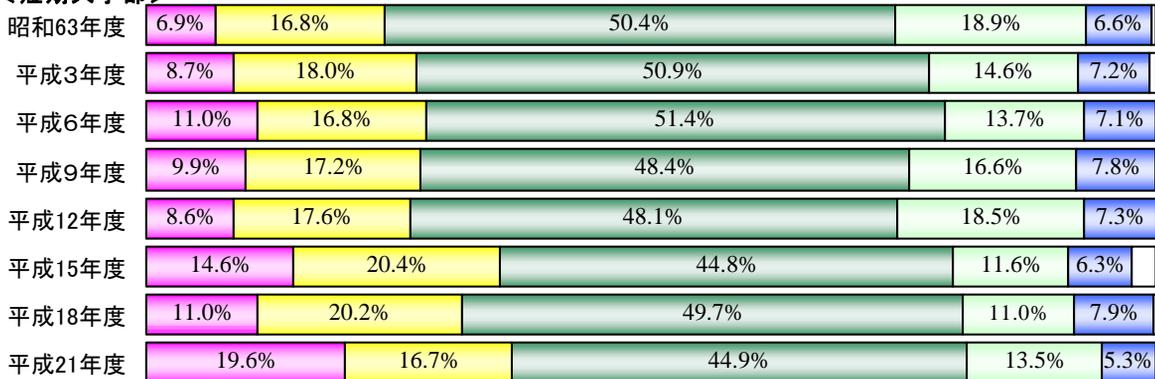
学生生活が充実している学生の比率は短期大学部で過去最高、
第二部（夜間部）と通信教育部では3年前よりやや減少。

学生生活の充実感についての経年変化を見ると、第二部（夜間部）では3年前より充実した学生の比率がやや減少しています（「とても充実」と「かなり充実」の比率の合計が24.7%で3.7ポイント減）。短期大学部を見ると、充実感の高い学生の比率は昭和63年度より12.6ポイント増加し36.3%と過去最高となっています（「とても充実」も19.6%と最高）。通信教育部では、充実感の高い学生の比率は3年前と比較して1.4ポイント減（「とても充実」は12.3ポイント減）となっています。

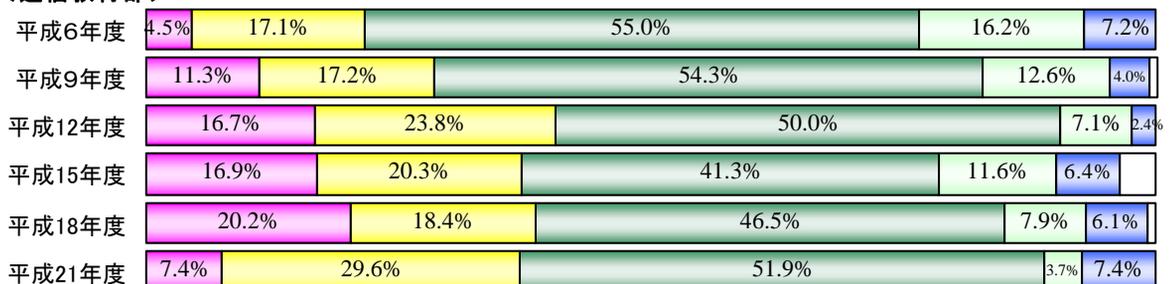
< 第二部（夜間部） >



< 短期大学部 >



< 通信教育部 >

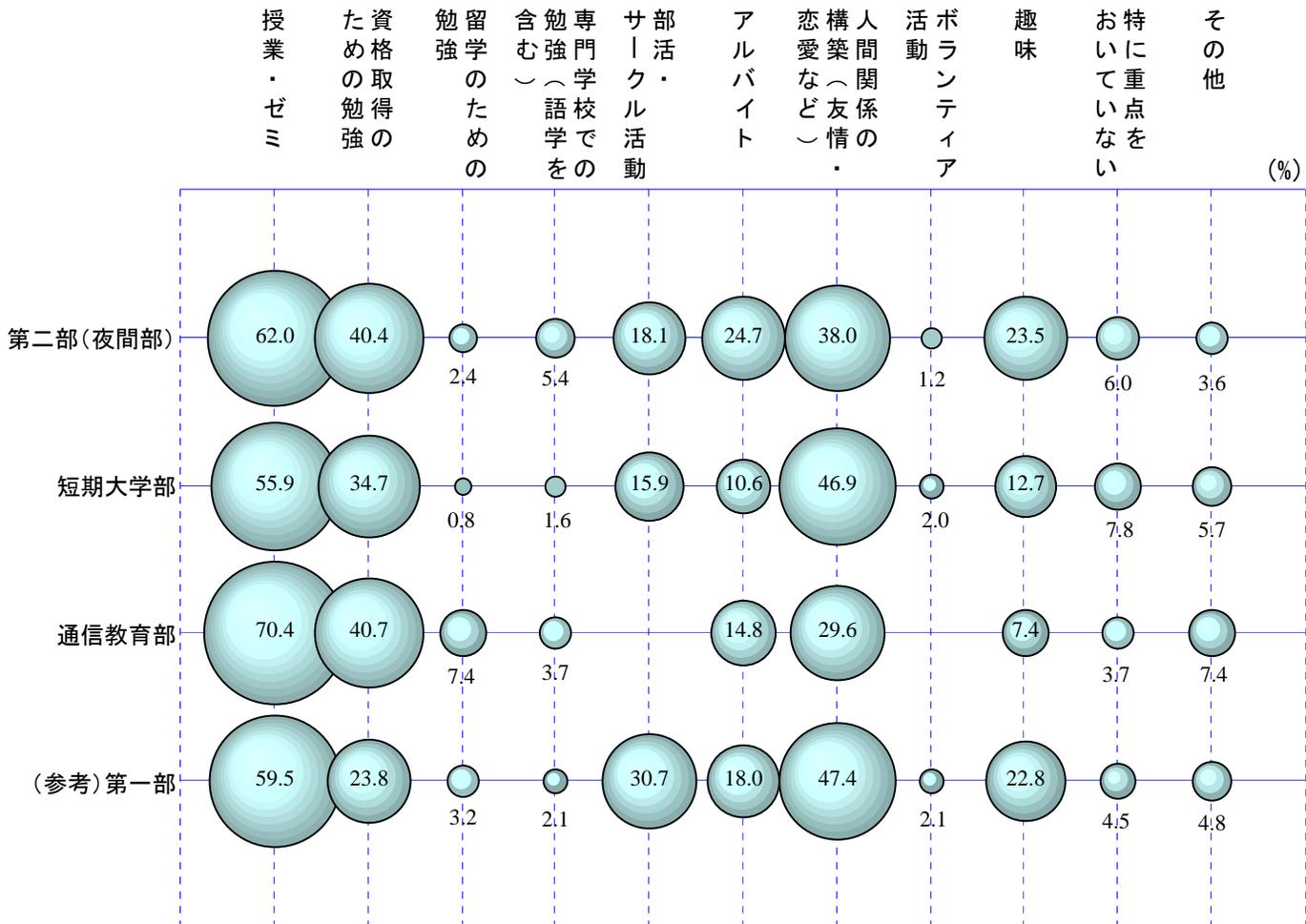


6. 学生生活で重要視すること

学生生活では、「授業・ゼミ」を重視する比率が最も高い。
第一部に比べ、「資格取得のための勉強」重要視する傾向が低い。

学生生活で重要視することを見ると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「授業・ゼミ」がトップになっています。続いて、第二部(夜間部)では「資格取得のための勉強」と「人間関係の構築」、短期大学部では「人間関係の構築」、通信教育部では「資格取得のための勉強」が高くなっています。

第一部と比較すると、第二部(夜間部)、短期大学部、通信教育部共に「資格取得のための勉強」が重要視される傾向が見られます。

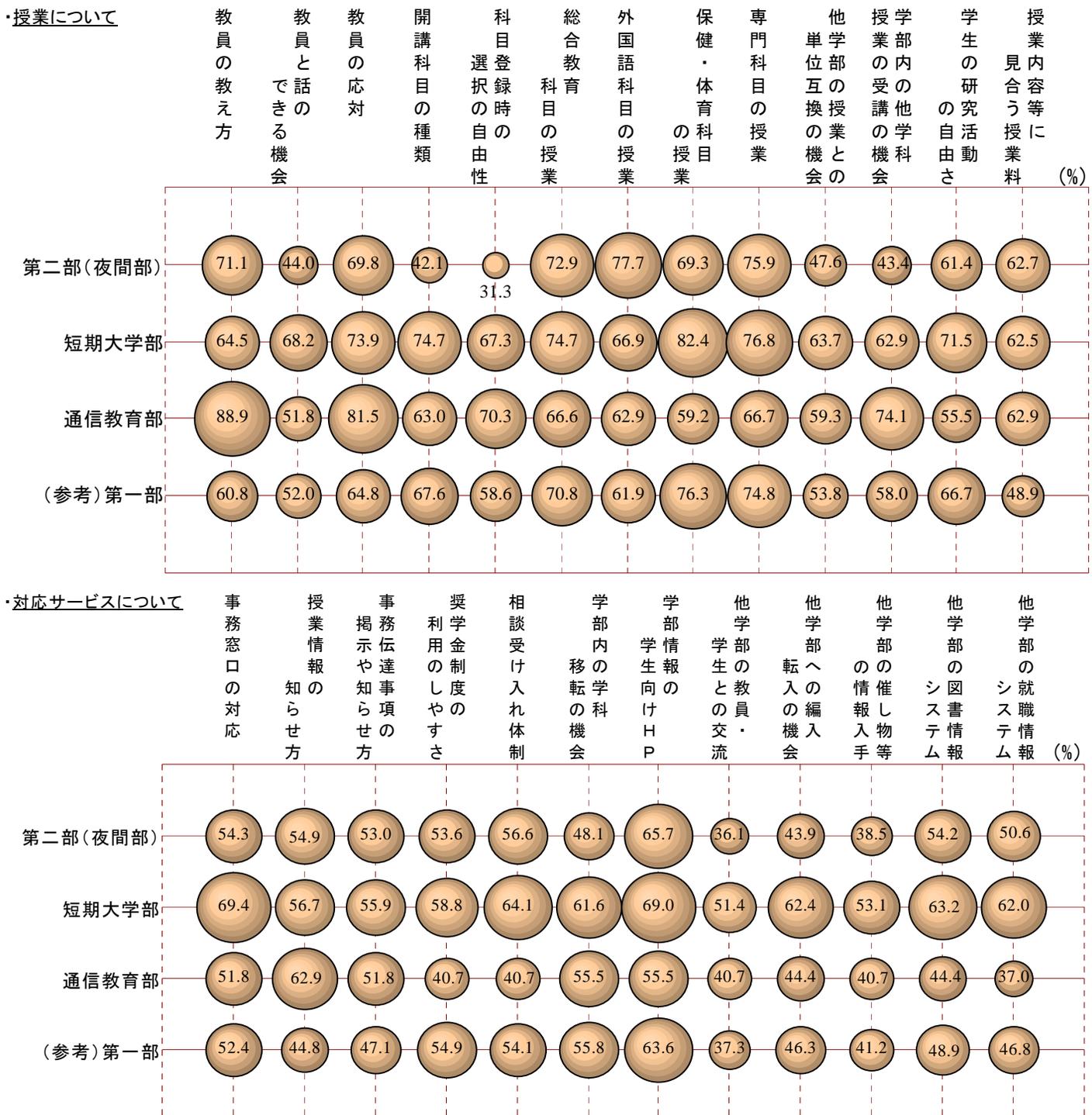


7.授業および対応サービスについての満足層の比率

短期大学部や第二部(夜間部)は、授業への満足層の比率が高い傾向。
通信教育部は、教員に対する満足度は高いが、授業は相対的に低め。

満足層(とても満足+どちらかといえば満足)の比率を見ると、通信教育部で「教員の教え方」「教員の対応」、短期大学部で「保健・体育科目の授業」が80%を超え目立っています。また、第二部では「外国語科目」と「専門科目」、短期大学部では「専門科目」の授業も75%以上と高くなっています。通信教育部では授業に関しては満足層の比率が低めの傾向が見られます。

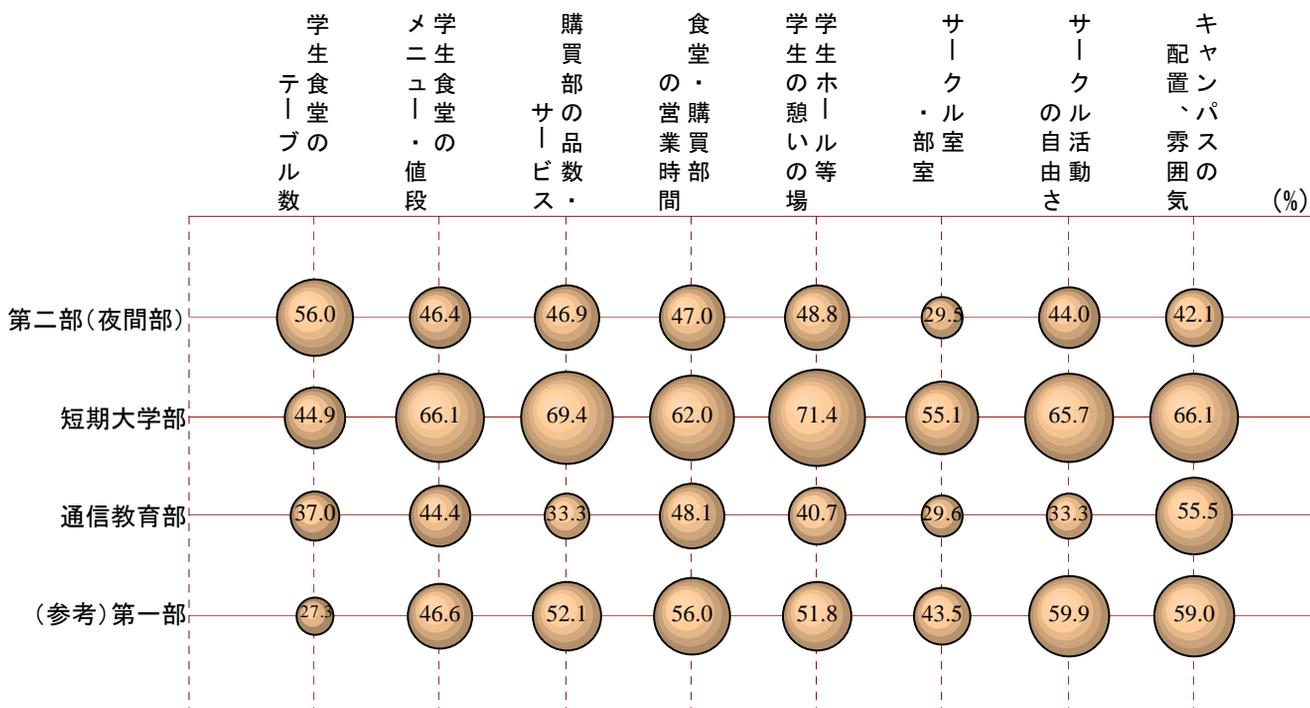
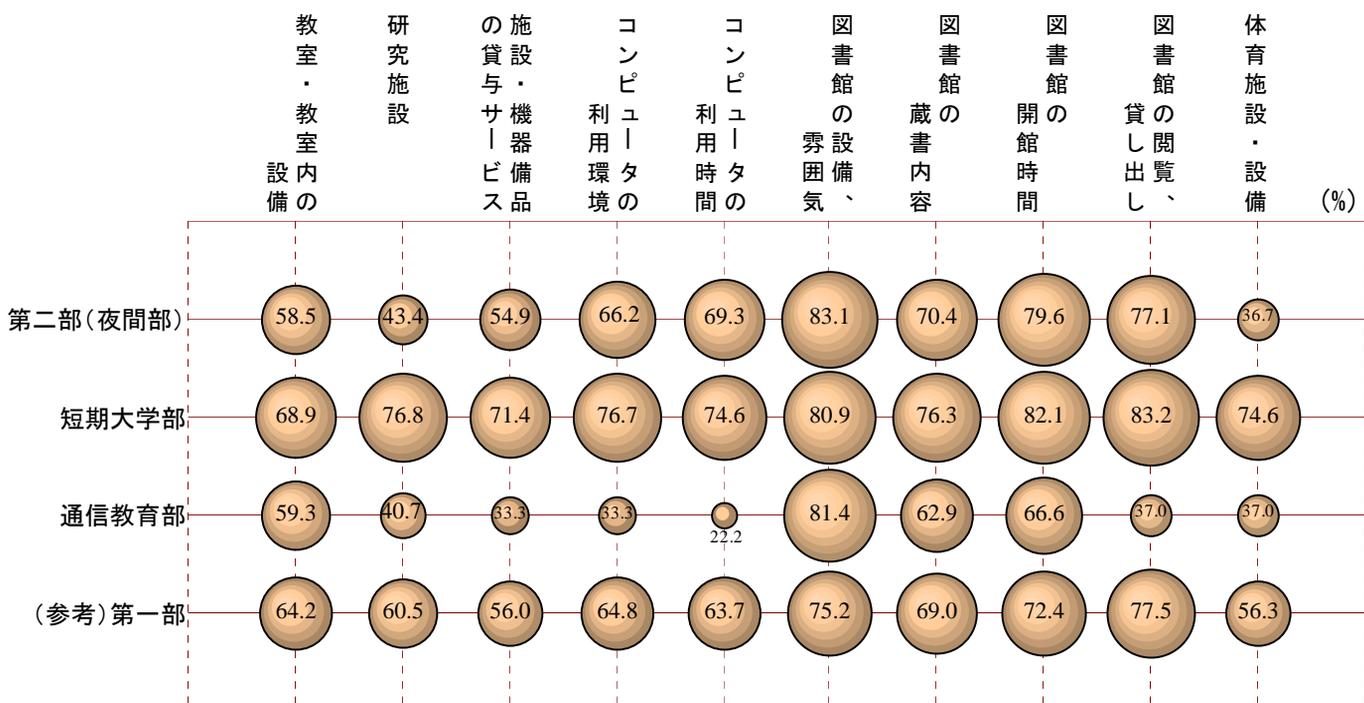
第一部と比較すると、短期大学部では「窓口の対応」「教員と話のできる機会」「他学部への編入転入の機会」「他学部の就職情報ネットワークシステム」、第二部(夜間部)では「外国語科目の授業」がそれぞれ15ポイント以上高くなっています。



8. 施設についての満足層の比率

図書館についての満足度は、第一部同様非常に高い。第二部(夜間部)では学生食堂のテーブル数，短期大学部ではメニュー・値段，学生の憩いの場の評価が第一部より高い。

施設についての満足層の比率を見ると，三崎町キャンパスの第二部(夜間部)と三島・船橋・湘南とキャンパスが分かれている短期大学部は共に，「図書館の設備・雰囲気」など図書館に関する項目が70～80%台と高く，第一部同様図書館の満足度の高さが目立ちます。昼間スクーリングに参加した通信教育部生も「図書館の設備・雰囲気」も満足度は80%台高くなっています。第一部と比較すると，第二部(夜間部)では「学生食堂のテーブル数」，短期大学部では「学生ホール等学生の憩いの場」「学生食堂のメニュー・値段」「体育施設・設備」の満足度が高い点が目立っています。



9.授業外活動

学外の勉学経験は通信教育部と第二部で20%強、短期大学部は第一部の1・2年生より低め。

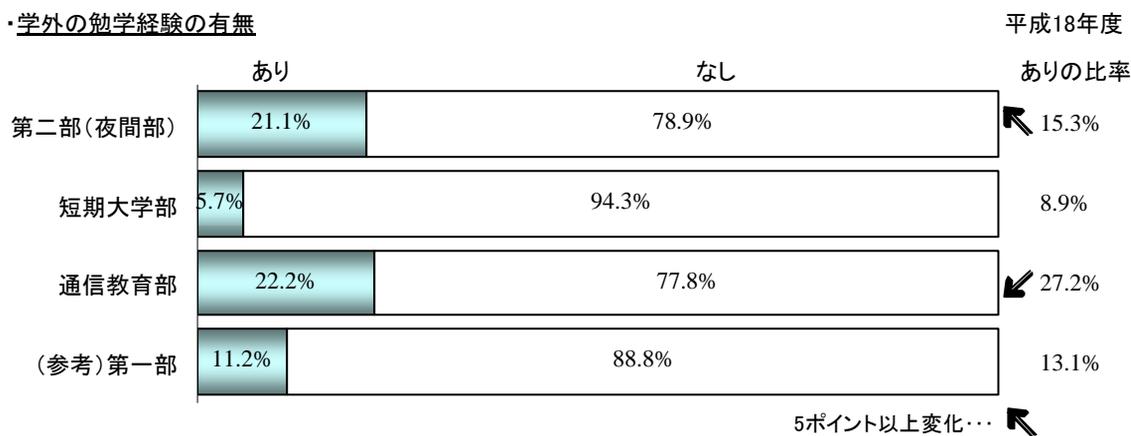
クラブ・サークルへの参加率は、第二部(夜間部)，短期大学部，通信教育部共に第一部よりかなり低い。学生主体行事への参加率は，第二部(夜間部)と短期大学部で減少傾向。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験を見ると，第二部(夜間部)では21.1%通信教育部では22.2%と，第一部(11.2%)に比べ高く，短期大学部では5.7%と第一部の1・2年生(7.2%)より若干低めとなっています。

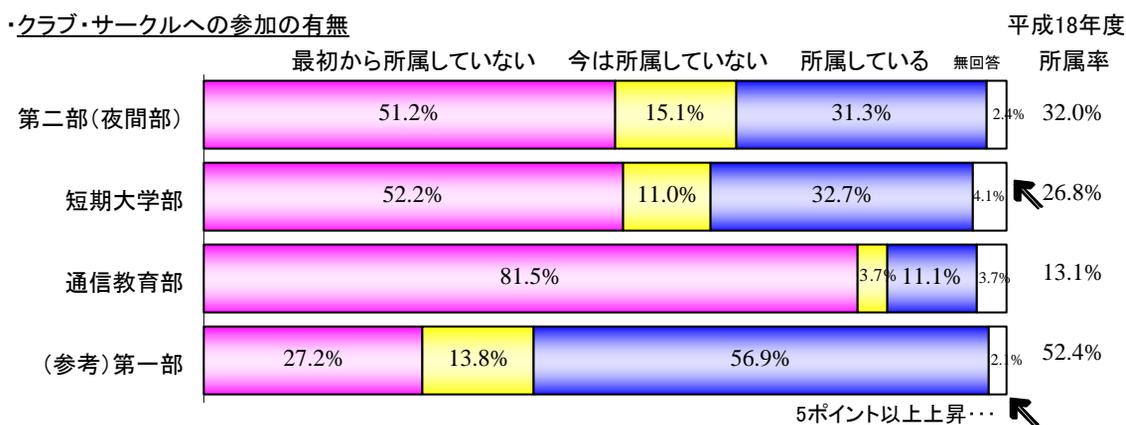
クラブ・サークルの所属率は，第二部(夜間部)で31.3%，短期大学部で32.7%，通信教育部で11.1%と，第一部(56.9%)を大きく下回っています。短期大学部では平成18年度に比べて5.9ポイント増加しています。

学生主体行事への参加率は，短期大学部で34.7%，第二部(夜間部)は16.3%，通信教育部は11.1%と第一部(47.5%)より低く，平成18年度と比較しても第二部と短期大学部では減少が目立ちます。

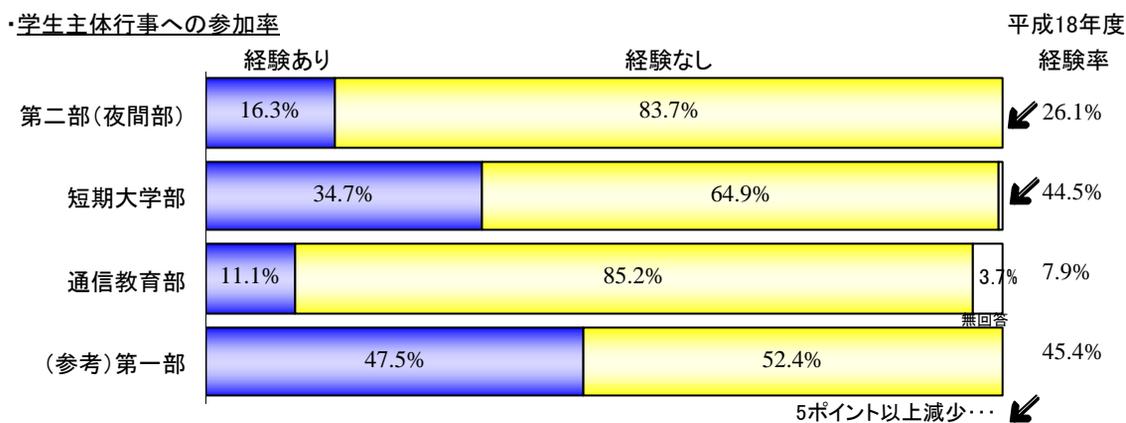
・学外の勉学経験の有無



・クラブ・サークルへの参加の有無



・学生主体行事への参加率

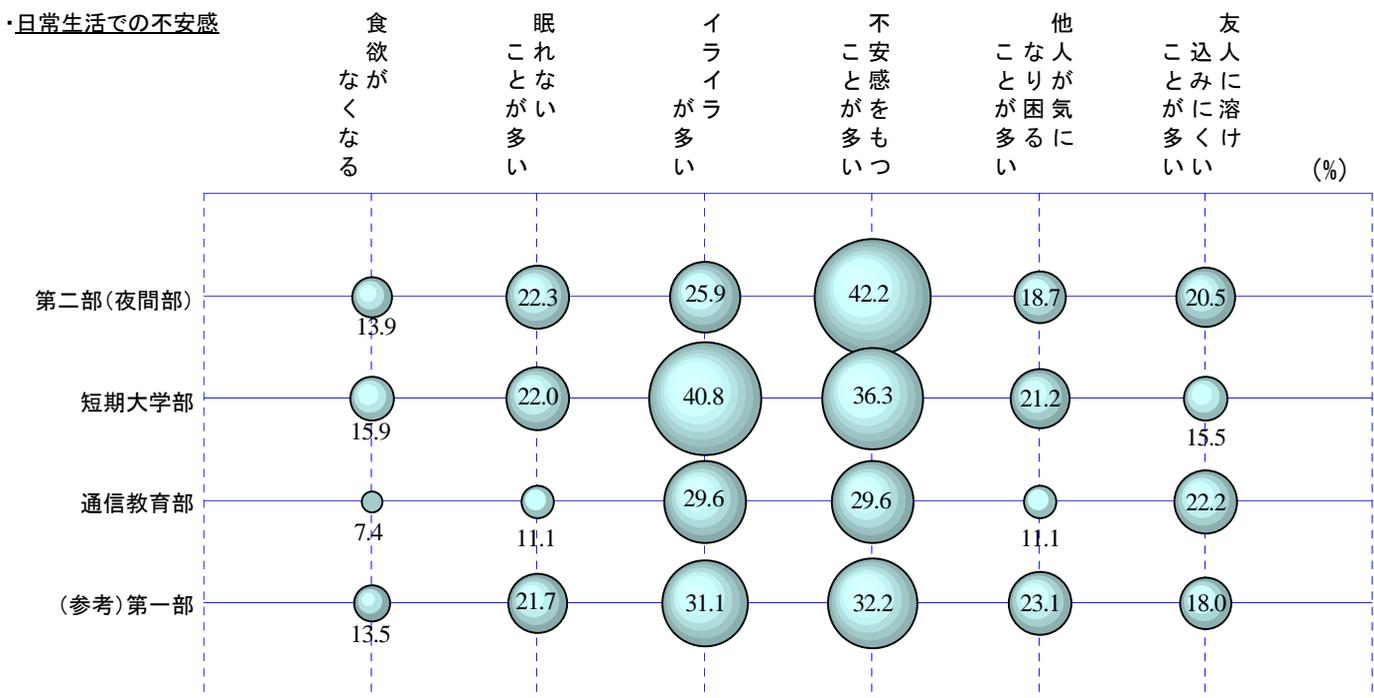
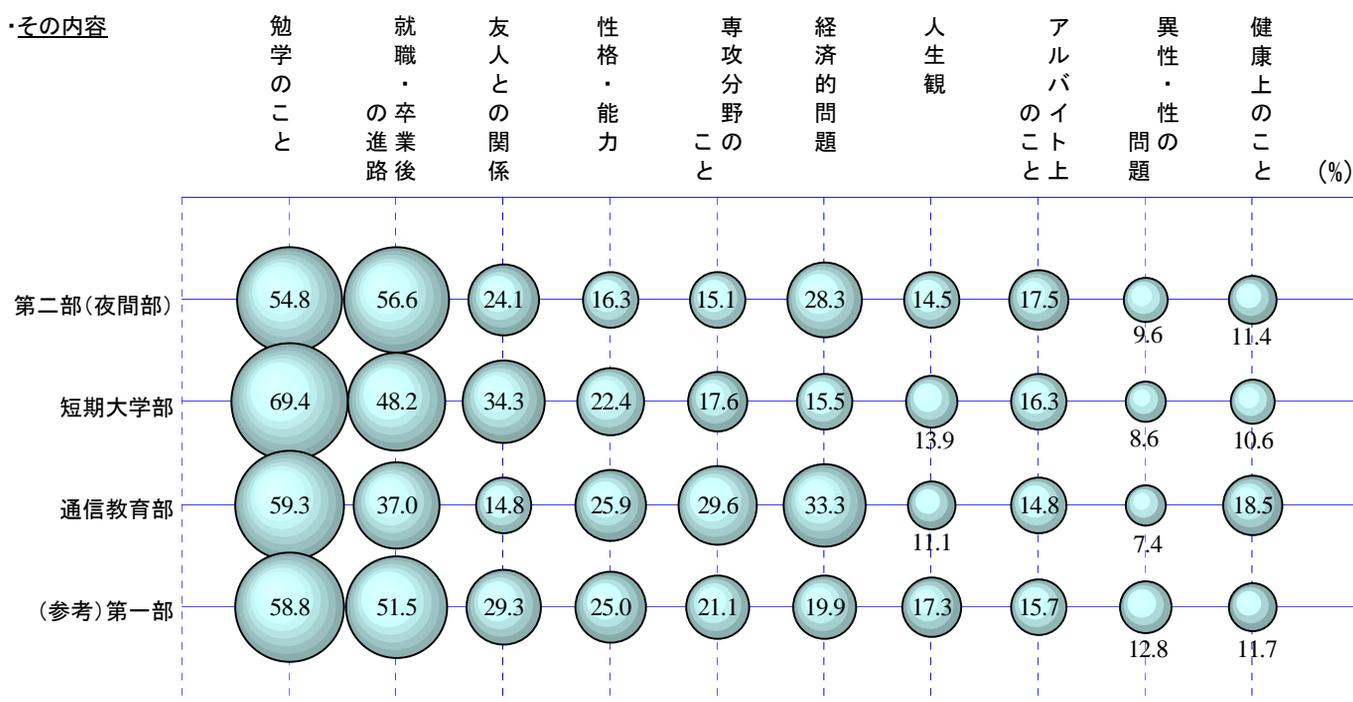


10.不安・悩み・トラブル

第二部(夜間部)では「進路」、短期大学部、通信教育部では「勉学」が不安・悩みのトップ。「不安感」は第二部(夜間部)、「イライラ」は短期大学部の学生で高い。

在学中に経験した不安・悩み・トラブルなどを見ると、第二部(夜間部)では「就職・卒業後の進路」が最も高く、僅差で「勉学のこと」が続いています。短期大学部、通信教育部では共に「勉学のこと」が最も高く、「就職・卒業後の進路」が2番目となっています。第一部と比較すると短期大学部で「勉学のこと」(69.4%)、通信教育部で「経済問題」(33.3%)と10ポイント以上高い点が目立っています。

日常生活での不安感を見ると、第二部では「不安感をもつことが多い」(42.2%)、短期大学部で「イライラが多い」(40.8%)学生の比率が高い点が目立っています。



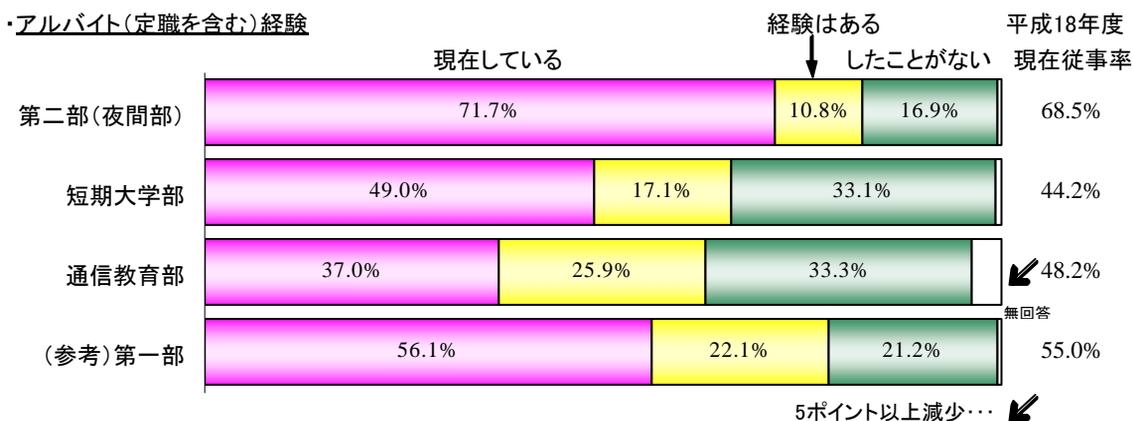
11.アルバイト(定職を含む)経験の有無

アルバイトを現在している学生は、第二部(夜間部)で7割。
短期大学部と通信教育部は第一部よりアルバイトをしている比率が低い、

アルバイト(定職を含む)を「現在している」学生は、第二部(夜間部)では71.7%、短期大学部で49.0%、通信教育部で37.0%となっています。第二部(夜間部)で現在アルバイトをしていない学生が3割弱いることとなります。平成18年との比較では、第二部と短期大学部では若干増えましたが、通信教育部では11.2ポイントの減少となっています。

第一部と比べると、短期大学部と通信教育部は現在アルバイトをしている学生の比率が低い一方、「したことがない」学生も10ポイント以上高くなっています。

短期大学部ではアルバイトをしている学生の約9割が「長期アルバイト(6か月以上)」で、第一部の学生と同様の傾向です。第二部(夜間部)では「定職」を持つ学生が全体の8.4%となっています。



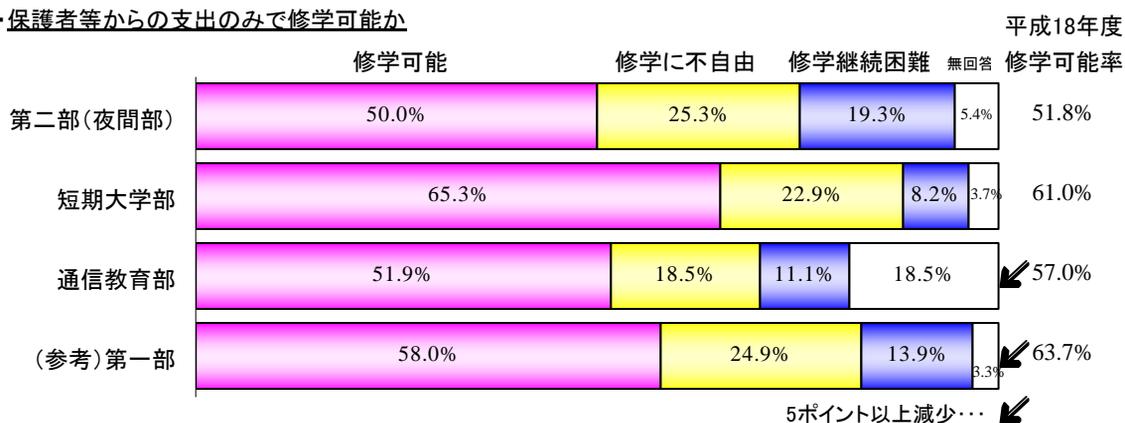
12.保護者等からの支出のみで修学可能か

第二部（夜間部）の学生は修学上経済的問題を抱えている学生の比率が高く、修学継続困難な学生が2割も。第二部（夜間部）と通信教育部では奨学金給付希望が2割。

保護者などからの支出で「修学可能」な学生の比率は、第二部（夜間部）で50.0%、短期大学部で65.3%、通信教育部で51.9%であり、第二部（夜間部）と通信教育部は第一部より低くなっています。「修学継続困難」な学生が第二部（夜間部）で19.3%と高い点が目立っています。平成18年度と比較すると、第二部（夜間部）ではほぼ同じ比率となっており、修学上問題を抱えている学生の比率が高い傾向は継続しています。一方、短期大学部では「修学可能」が4.3ポイント増加しています。

第二部（夜間部）や通信教育学部では、「奨学金の給付を受けたい」はともに20%を超えており（第一部では17.6%）、奨学金に対する希望が強いといえます。

・保護者等からの支出のみで修学可能か



13.日大に入学する決心をした理由と入学直後の意識

第一部に比べ、第二部（夜間部）は「有名大学だから」、短期大学部と通信教育部は「資格が取れるから」が高い。

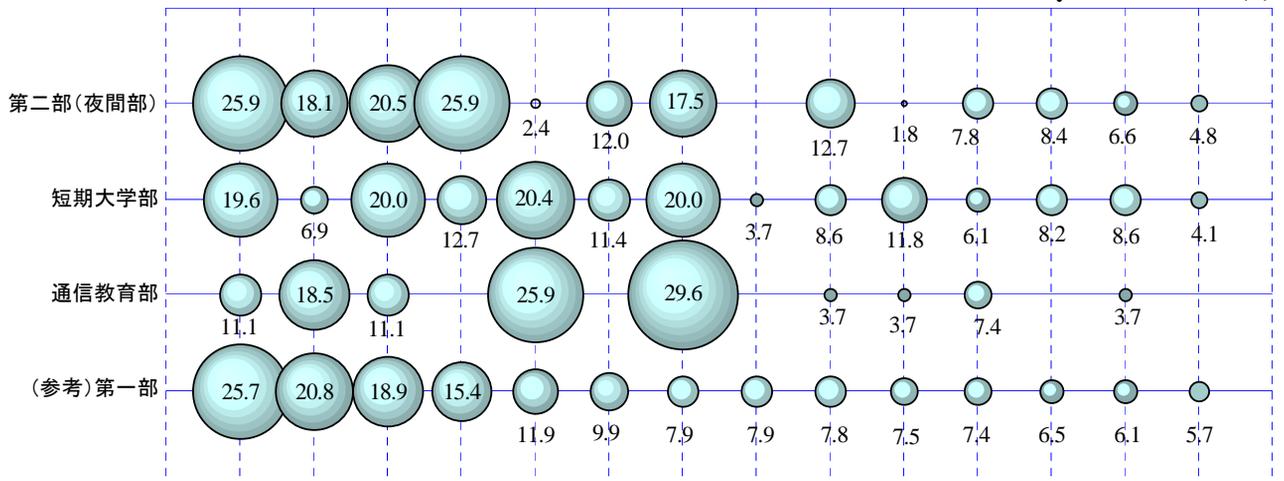
日大入学は良かったが、他大学への再受験を考えた学生（不本意入学）も多い。

日大に入学を決心した理由を、第一部での高い順（出現率5%以上）に並べたものが上段の図です。第二部（夜間部）では「希望した大学に入らなかった」と「有名大学だから」が同率でトップですが、短期大学部では「就職に有利」「総合大学」「資格が取れる」がほぼ同率で上位、通信教育部では「資格が取れる」がトップとなっており、それぞれ理由に差が見られます。

入学直後の意識を、第一部での高い順に並べたものが下段の図です。第二部（夜間部）と短期大学部、通信教育部共に、今の学部や日大に入って良かったという意識が高く、満足度は第一部と同水準となっています。第一部と比較すると、「他大学への再受験を考えた」が30～50ポイント高くなっており、不本意に入学した学生の比率が高い特徴が見られます。

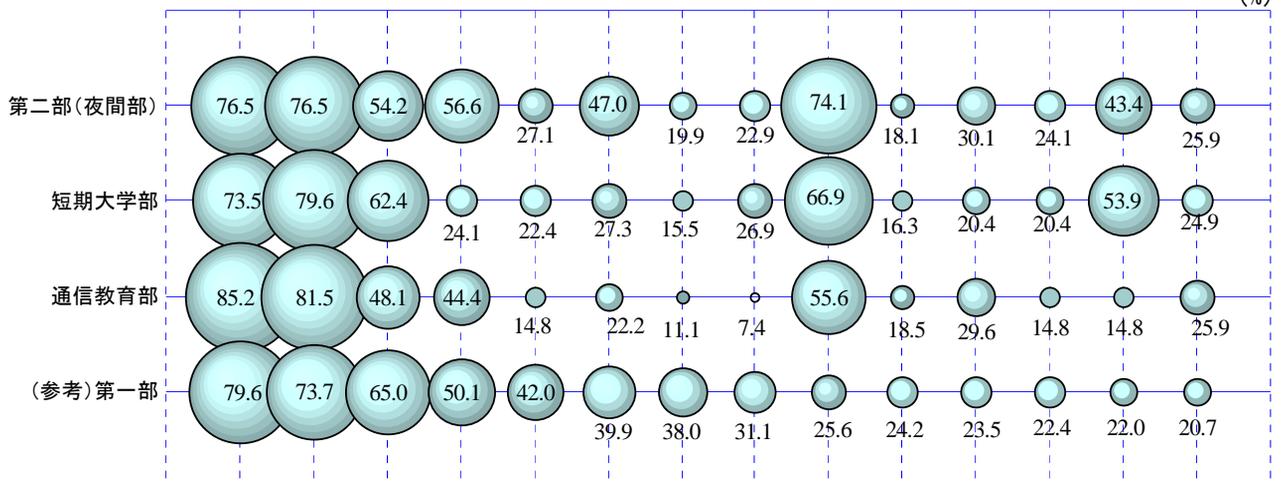
・日本大学に入学する決心をした理由

理由	希望した大学に	規模が大きいため	総合大学だから	有名大学だから	就職に有利だから	通学に便利	資格が取れるから	ユニークな学がある	大学に見学に来た	施設が整っている	伝統があるから	社会で活躍している卒業生が多い	授業料が安いから	雰囲気が良さそう
----	---------	----------	---------	---------	----------	-------	----------	-----------	----------	----------	---------	-----------------	----------	----------



・入学直後の意識

意識	今の学部良かった	日大に入ってた	授業に出ている成績	入学時卒業後の意識	日大より高い希望	東京の大学に入学	入学してさあ遊べると思った	他学部他学科に入った	他大学への再受験を考えた	日大が浪人かだ	雰囲気になじった	頭がいい	入学して積極的に	日大に来たべき
----	----------	---------	-----------	-----------	----------	----------	---------------	------------	--------------	---------	----------	------	----------	---------

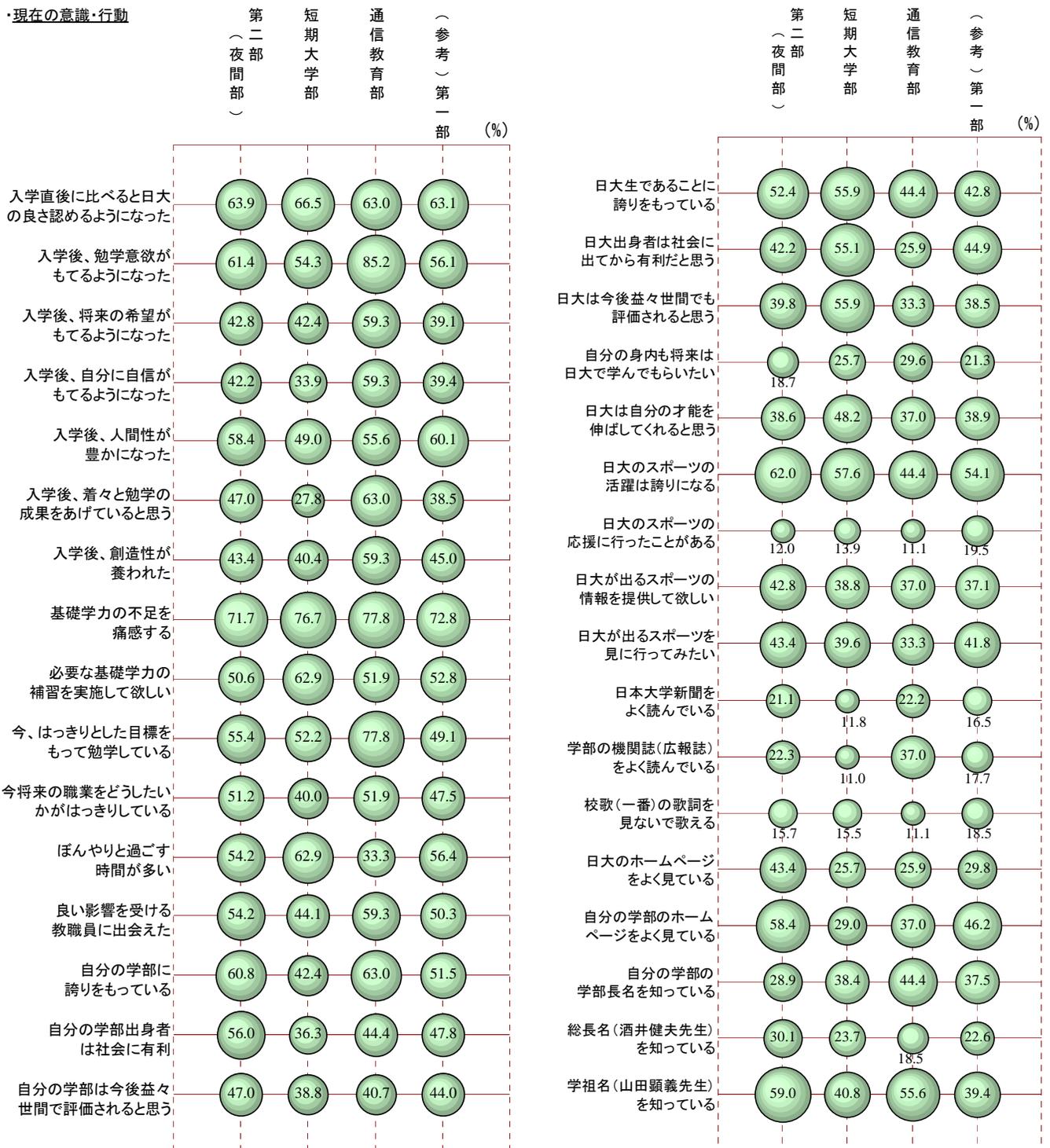


14.現在の意識・行動

「基礎学力の不足を痛感」している学生が70%以上と高く、短期大学部で補習要望が強い。第二部（夜間部）と通信教育部で勉学意欲が高く、第二部（夜間部）は帰属意識も高い。

学生の現在の意識について見ると、第二部（夜間部）、短期大学部、通信教育部共に「基礎学力の不足を痛感する」が70%以上と高い点が目立っています。短期大学部では「補習実施」の希望が62.9%と高くなっています。「入学後、勉学意欲が持てるようになった」学生が第二部（夜間部）で61.4%、通信教育部で85.2%と勉学意欲の高さが見られます。第二部（夜間部）では「日大スポーツは誇り」「学部ホームページ」「学祖名を知っている」が60%前後と高くなっており、日大に対する帰属意識が高い傾向が表れています。

・現在の意識・行動



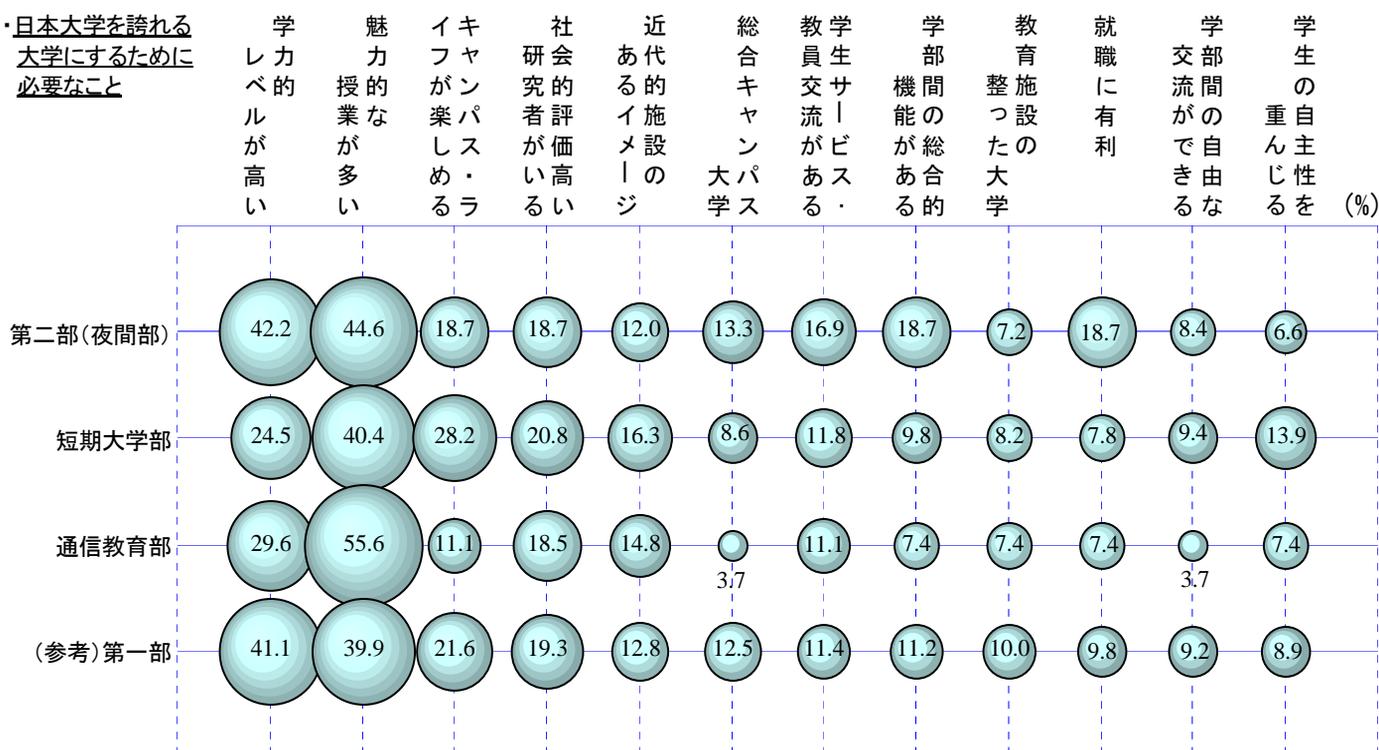
15. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

「魅力的な授業が多いこと」が日大の魅力向上のトップ。
 第二部（夜間部）は「学力レベル」，短期大学部はキャンパスライフも重視。

本大学を魅力ある大学にするために特に重要なことについての学生の回答を見ると，第二部（夜間部），短期大学部，通信教育部共に「魅力的な授業が多い」がトップとなっています。第二部と通信教育部は「学力的レベルが高い」，短期大学部は「キャンパス・ライフが楽しめる」がそれぞれ2位となっています。さらに短期大学部では，「学力レベルが高い」「社会的評価の高い研究者がいる」も20%台と相対的に高くなっています。

第一部と比較すると，「魅力的な授業が多い」を重視する傾向が強いといった特徴が見られます。

・日本大学を誇れる
 大学にするために
 必要なこと



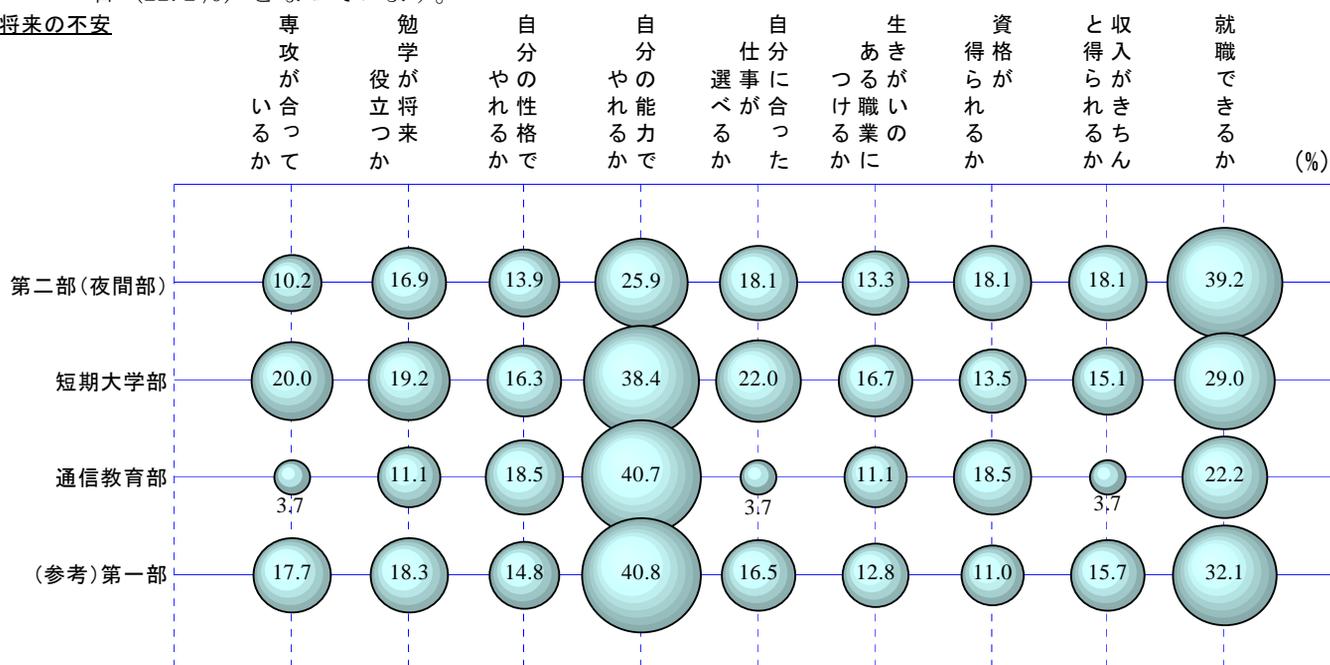
16.将来の不安と進路に関して得たい情報・知識

将来について、不安のトップは第二部(夜間部)は「就職できるか」、短期大学部と通信教育部では「自分の能力」。得たい情報・知識のトップは第二部(夜間部)と短期大学部では「自分の職業適性」、通信教育部では「社会人の常識」。

将来について感じている不安を見ると、就業者が多い(アルバイトが71.7%, うち定職が8.4%) 第二部(夜間部)では「就職できるか」が39.2%, 短期大学部と通信教育部では第一部同様「自分の能力でやれるか」が約40%で最も高くなっています。

進路について得たい情報・知識について見ると、第二部(夜間部)と短期大学部は「自分の職業適性」が40%前後でトップ, 「社会人としての常識」が30%前後で2番目となっており, 第一部と同傾向を示しています。「資格試験の対策」は, 第二部(夜間部)で「就職できるか」という不安が強いいためか22.9%と高く, 短期大学部では編入希望者が多いためか9.8%と低くなっています。通信教育部では108「社会人としての常識」がトップ(25.9%), 「価値観形成に役立つ知識」が2番目(22.2%)となっています。

・将来の不安



・進路について得たい 情報・知識

